

令和6年度自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月12日
江別市立野幌小学校

1. 本年度の重点目標

◎力強く 夢に向かう 野小っ子 「 かしこく やさしく 元気よく 」

2. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善の方策の適切さ
経営方針の重点	特認校としての特色ある教育課程の編成・実施と学習指導の充実 ■肯定的回答 80%	A	・特色ある教育課程(原始林学習、栽培活動等)の編成・実施に重点を置き、コロナ後の新しい形での活動を目指し、様々な工夫のもと実施してきた。今後も、地域素材や人材の活用を図りながら、魅力ある教育活動を推進する。	A	A
	愛林班活動の活性化と豊かな心の育成 ■肯定的回答 80%	A	・異学年の活動を中心とした愛林少年団活動を実施、継続していくことで、責任感や思いやりの気持ちを育成すると共に、郷土愛や愛校心を高めてきた。今後も縦割り班清掃など、異学年の活動を数多く取り入れることで、互いのよさを認め合う気持ちを高める教育活動を継続していく。	A	A
	確かな学力の確実な定着 ■肯定的回答 80%	A	・全国学力・学習状況調査や学力テストの結果から児童一人一人の実態を的確に把握するとともに、本校ならではの少人数指導のよさを活かした個に応じた丁寧な指導を継続してきた。今後も、対話を重視した授業改革を進めるなど、児童の主体的な学びを支える学習過程を継続する。	A	A
	体力向上の取組と保健・安全・食育の指導 ■肯定的回答 80%	A	・新体力テストの結果や日常の体育科の授業から児童の実態を的確に把握し、それらを基にした体力向上の取組を継続していく。 ・養護教諭や栄養教諭による授業を継続的に実施する。	A	A

	<p>学校における働き方改革の推進 ■肯定的回答 80%</p>	B	<p>・今年度は、休職者がでたこともあり、教職員一人一人の負担が大きくなってしまい、働き方改革がなかなか進まなかった。今後は、次年度に向けて「働き方改革コアチーム」を中心に業務内容の見直し(会議数の削減やICTの活用)を行っていく。</p> <p>・保護者・地域の皆様への情報発信に心がけ、理解の促進を図る。</p>	B	A
	<p>保護者・地域・他機関との連携と協力 ■肯定的回答 80%</p>	A	<p>・教育方針や教育活動について、ホームページやマチコミメールを用いて、保護者や地域に積極的に発信してきた。今後も、学校に対する意見や要望を真摯に受け止め、教育活動の工夫・改善を進めていく。</p>	A	A
教育課程 ・学習指導	<p>地域素材・人材の活用、原始林の活用等、学ぶ楽しさを味わうことのできる教育活動の推進 ■肯定的回答 80%</p>	A	<p>・様々な体験活動を通して学ぶ喜びや楽しさを味わうことができる教育課程の編成に努めてきた。今後も地域とのつながりを深め、地域素材や人材を積極的に発掘していく</p>	A	A
	<p>習得・活用・探求の場を設定し、合同授業や交換授業など指導体制の工夫・改善を図る ■肯定的回答 80%</p>	A	<p>・学習サポート教員、特別支援教育支援員等の配置により、個々の学びの質を高めたり、学年ブロックごとの合同授業の実施等を通して互いに高め合う教育活動を推進してきた。</p> <p>・専科教員の配置(4年生以上で理科専科)により、専門性を発揮することで、学ぶことに対する児童の興味関心を高めることができた。</p>	A	A
	<p>野小アプローチの確立、家庭学習の定着等により、学習習慣の確立を図る ■肯定的回答 80%</p>	B	<p>・国語科で確立した「野小アプローチ」をもとに、児童自らが学習の主体となる授業を実践する。</p> <p>・毎日の宿題や自学ノートの取組により、少しずつでは学習習慣の定着が見られてきた。今後は、学年間の交流や、ICTのさらなる活用を進めていく。</p>	B	A
生徒指導	<p>異学年の集団活動や縦割り班(愛林班)活動を通して好ましい人間関係を構築させる ■肯定的回答 80%</p>	A	<p>・愛林班活動や各種全校活動(ブロック活動)を通して責任感や協調性、思いやりの心の醸成を図る。</p>	A	A

	日頃よりいじめの実態把握に努め、組織的に迅速に対応する体制をより強固にする ■肯定的回答 80%	A	・月1回「生活アンケート」を実施し、いじめや不登校の未然防止に努めてきた。今後も問題行動等があった場合は、即座にケース会議を開き、全職員で共通理解を図りながら迅速に組織的に対応する。	A	A
教職員・保護者・地域の連携	教職員全員が児童全員を指導する体制を構築し、こころのふれあいを大切にする ■肯定的回答 80%	A	・月1回の「生活アンケート」を用いて、児童がSOSを出しやすい環境を整えてきた。今後も、担任だけではなく、全職員で児童を指導するという共通理解のもと、児童と触れ合い、日常的に実態の交流を図っていく。	A	A
	学校・家庭・地域が連携・協力して共に子どもたちを育てるという考え方を共有して日常の教育活動を推進する ■肯定的回答 80%	A	・学校便りや学年通信、HP、メール等により情報を発信してきた。今後も、可能な限り保護者や地域の方と顔を合わせて話す機会を設け、双方向のよりよい関係づくりに努める。	A	A
	PTA活動・育成会等の地域の活動に進んで協力し、協調関係を深める ■肯定的回答 80%	A	・PTA役員を中心とした会員との連携を強化し、互いに協力しながら、子どもたちの健やかな成長をめざしていく。	A	A
体力づくり	体育の授業や全校的な外遊び、野小タイムなどの体力の向上と健全な心身の育成を図る ■肯定的回答 80%	A	・野小外遊びの奨励や野小タイム、野小ランの実施、外部講師を活用した走り方教室などを健全な心身の育成を図った。今後も、体力向上プランに基づいて、継続的に体力づくりの取組を行っていく。	A	A
小中一貫教育	めざす子ども像を明確にし、9年間の系統性を明らかにした学習・生活規律の確立を図る。 ■肯定的回答 80%	A	・9年間を見通した系統性のある教育課程を作成し、それに基づいて指導を行ってきた。今後も、各校の実態を交流しながら、中学3年生を見据えた指導を行っていく。	A	A
	児童生徒の課題を共有して教育課程の接続を図る。 ■肯定的回答 80%	A	・4校合同で作成した、学習・生活等の重点的に取り組む事項(スタンダード)を基に、継続して指導をしてきた。今後も、各教科の特性や各校の学年ごとの実態を共有し、児童の指導に生かしていく。	A	A

【評価項目の設定、達成状況および改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

○西山委員より

- ・一人少ない中、先生方の負担は大きかったと思うが、その中でも最大限の努力をしてくれた。
- ・家庭学習の取組については、各家庭のよって違いがあると思うので、これからも家庭と連携して頑張ってもらいたい。

○武山委員より

- ・評価という数値ではなかなか表れないかもしれないが、野小の様々な教育活動は社会に出た時に子どもたちの力になると思う。

○原委員より

- ・人数が少ないので、マイナスの意見が出ると数値にでてしまうが、先生たちの努力はしっかりと認めてあげたい。

【評価】A:よい B:おおむねよい C:ややよくない D:よくない